ムハッラム

ヒジュラ暦１月

その名前の意味について

ムハッラムには、その期間における**戦いの禁止**という意味があります。なぜならそれは聖月のひとつであり、**「アッラーの月」**とも呼ばれているからです。また、その神聖さから「戒めの月」とも呼ばれる程です。

聖月の法規とは？

アッラーは私たちにその期間における儀礼を尊重し、禁忌を犯さないよう心がけ、そして崇拝行為を遵守するよう命じています。その期間における不幸は、その期間以外のものよりも大きなものです。『本当にアッラーの御許で、（１年の）月数は、１２ヶ月である。アッラーが天と地を創造された日（以来の）、かれの書巻のなか（の定め）である。その中４（ヶ月）が聖（月）である。それが正しい教えである。だからその聖月中にあなたがたは互いに不義をしてはならない。』（悔悟章）

イスラームの開始当初は、聖月において戦いを始めることは禁じられていましたが、次のアッラーの御言葉によってそれは廃止され、他の月と同様に戦いが許可されるようになりました。
『そして多神教徒が皆であなたがたと戦うように、（あなたがたも）皆で戦え。』しかし、

アッラーによって命じられているよう、ムスリムはその期間中においては崇拝行為に専念し、イスラーム法に則った行いをすべきです。

その徳：

1
それらはラマダーン月の次に最良の月々であり、その偉大さと栄誉から、アッラーの月と呼ばれます。預言者（アッラーの慈悲と祝福あれ） は述べています。
「月々のなかでも最良の月は、ムハッラムと呼ばれるアッラーの月である。」（ナサーイー　４２０２番）

2
そこにおける断食はラマダーンの次に良いとされること。預言者（アッラーの慈悲と祝福あれ） は述べています。
「ラマダーンの次に最良の断食は、アッラーの月ムハッラムである。」（ムスリム　１１６３番）

3
聖月の内の一ヶ月であり、そのなかでも最良のものであること。

聖月とは

聖月とは、アッラーが私たちにそれを尊厳するよう命じ、そして巡礼者・訪問者たちが安心して、かつ安全に巡礼を遂行出来るよう、**その期間中の戦いを禁じた**次の**４ヶ月間**のことです。

第１１月であり、巡礼者たちがマッカへの旅を準備・開始する月です。

第１２月であり、ハッジが行われる月です。

１年間の第１月であり、巡礼者たちが祖国に帰る期間となります。

１年間の中心にあたる第７月であり、マッカのカアバ聖殿への訪問を望む者が、巡礼期間外においても安心かつ安全に訪問することが可能です。

なぜそれが第１月とされたのでしょうか？

ウマル・ブン・アル＝ハッターブによる統治期のヒジュラ暦１６年、イスラーム歴を預言者（アッラーの慈悲と祝福あれ） によるヒジュラ（マディーナ移住）をその元年とすることでサハーバ間の合意がなされ、ムハッラムがその第１月とされました。その理由は以下の通りです。

1 それは預言者（アッラーの慈悲と祝福あれ） が巡礼後にアカバにてアンサールたち（マディーナの援助者たち）と会い、**ヒジュラの決意がされた月**だからです。

2 それは**ハッジ月の後に来る聖月のひとつ**のひとつであり、ムスリムたちが断食や巡礼などのその年の崇拝行為を終えるときであり、聖月によって年を終え、聖月によって新年を開始することが出来るようにとの配慮からです。

アーシューラーの日

なぜ**アーシューラー**に断食をするのでし

預言者（アッラーの慈悲と祝福あれ） がマディーナに移住した当時、ユダヤ教徒たちがアーシューラーの日に断食をしているのを目にした彼は、彼らにこう言いました。「あなたがたが断食しているこの日は何なのですか？」
彼らは言いました。

「この日はアッラーがフィルアウン（ファラオ）とその家来を溺れさせ、ムーサー（モーゼ）とその一族をお救いになった偉大な日です。それゆえムーサーは感謝の気持ちから断食し、私たちもそれに倣っているのです。」
すると預言者（アッラーの慈悲と祝福あれ） は言いました。
「私たちにはあなたがたよりもムーサーに対する権利があり、そうするにふさわしいのです。」

こうして預言者（アッラーの慈悲と祝福あれ） は断食し、その日の断食を命じるようになりました（ブハーリー、３９４３／ムスリム、１１３０）。それゆえ、私たちは預言者（アッラーの慈悲と祝福あれ） の模範に従い、ムーサー（彼に平安あれ）の勝利への感謝として断食をするのです。

アーシューラー という名が付けられたのは、ムハッラム月の**１０日目**　（アシャラ）にちなんでおり、その語根の変化によるものです。

アーシューラーの断食の徳について

それは前年１年分の罪の償いとなります。預言者（アッラーの慈悲と祝福あれ） はアーシューラーの断食についてこう述べています。「私はこれが去年の罪の償いとなることをアッラーに期待しているのです。」（ムスリム、１１６２）
また、これは**義務の断食以外では最善のもの**のものであると言われています。イブン・アッバース（アッラーのご満悦あれ）は述べています。

「私はこの日、アーシューラー以上に他の日よりも優先して預言者（アッラーの慈悲と祝福あれ）が断食をしようと望んでいたのを見たことがありませんでした。」
（ブハーリー、２００６／ムスリム、１１６２）

アーシューラー
の日の断食とアラファの日の断食の比較

断食の順番

１０日目のみの断食
アーシューラーの断食の徳に関するハディースの一般性によるもの。

９日目、１０日目、１１日目の断食
イブン・アッバースによる報告に基づいたものです。
「前日に断食し、翌日にも断食するのです。」（バイハキー、８４０６）

１０日目と１１日目の断食
預言者（アッラーの慈悲と祝福あれ） は述べています。
「ユダヤ教徒たちと同じように行ってはなりません。（アーシューラーの日の）前後のどちらか１日にも断食するのです。」（アフマド、２１５４／イブン・フザイマ、２０９５）

９日目と１０日目の断食
これがより良いとされる順番であり、預言者が行う決意をしていたものです。預言者（アッラーの慈悲と祝福あれ） はこう述べています。
「もしも私が来年も健在であるなら、（１０日だけでなく）９日にも断食をするでしょう。」（ムスリム１１３４）

アーシューラー
と、フセイン（アッラーのご満悦あれ）の殉教

ヒジュラ暦６１年（西暦６８０年）のアーシューラーの日、アル＝フセイン・ブン・アリー・ブン・アビー・ターリブが殺害されるという悲劇が起きました。彼は「天国における青年たちの長」であり、預言者の孫であり、ファーティマの息子であり、サハーバと学者たちの長の一人でした。そして彼と共に彼の息子を含む家族のメンバーの多くが殺されたのです。
これは、預言者（アッラーの慈悲と祝福あれ） の逝去、ウマル・ブン・アル＝ハッターブやアリー・ブン・アビー・ターリブの暗殺害同様、ウンマに起きた大いなる不幸ですが、彼らの子孫や近親者たちは一人として、彼らの死を記念日や追悼日とはしませんでした。それではなぜ、一部の人々は自らを鞭打ったり、咽び泣いたりといった大罪行為に及ぶのでしょう？

MODERN GUIDE

企画
構想
デザイン・調整

新ムスリム・ガイド
ハサン・バーハールーン
モダン・ガイド社

関連読書

イブン・ラジャブ著「ラターイフ・アル＝マアーリフ（لطائف المعارف）」
アル＝クルトゥビー著「アフカーム・アル＝クルアーン（أحكام القرآن）」
イブン・カスィール著「タフスィール・アル＝クルアーン・アル＝アズィーム（تفسير القرآن العظيم）タウバ章（第３６－３７節）」